

平成 29 年 7 月 20 日
千葉県立市川工業高等学校

各 位

交通安全教室 感想文（抜粋）

テーマ「家族の思い出を乗り越えて」

第3学年

・私は今回初めて事故に遭った方々の援助をする団体があることを知りました。18年間生きてて、まだ、1度も家族や親族を事故で亡くしたことがないので事故死について深く考えたことはありませんでした。でも、今日の講演を聞いて「見慣れているから大丈夫!」と思っていた道も大丈夫じゃないことを知り、遅刻しそうで焦って自転車をこいでいる日も気をつけて運転してしようと思います。交通事故の危険性を体験談で聞くことによりさらに気をつけようと思いました。

・とても重い話だなと感じたけれど、それを感じることで相手の気持ちもわかったし、軽い気持ちで免許を取ろうとしていた自分が恥ずかしくなりました。皆さん明るい人だと感じたけれど人生で私が体験したことのないつらい経験を聞き、私も自分のことのようにつらく感じました。たからこそ今、お話が聞けて良かったです。

・まず、初めていつもの集会よりも集中したなと自分的に感じました。交通事故の恐ろしさが今までよりも恐ろしく感じました。実際の話を書くことなんて中々出来ないのが良い体験ができました。今後自動車やトラックの免許を取りますので、命のことを頭の中で考えながら運転していきたいなと思いました。今回は良い機会をつくってくださりありがとうございました。

第2学年

・お二人の体験談を聞いて、いつ自分の家族そして自分も大きな事故に関わってしまうことがあるんだなと思いました。経験したからこそ気づけたことなど沢山のことを聞いて私もそういったことに対して気をつけていかなければならないし、毎日心掛けている、「行ってらっしゃい」「行ってきます」の声掛けを忘れずにしていきたいと、より強く思うことができました。将来、車に乗る機会があったら、安全第一に考えて事故を起こさないように気をつけて生活していきたいと思います。今回聞いた体験談を家族に伝えて行きたいと思います。

・大切な人、特にお母さんやお父さんがいなくなる事を想像すると、ゾッとします。相手も同じだと思うので、突然の別れにならないように、日頃から意識していく、当たり前のような時間をもっと大事にしていきたいです。今回の話を聞いて、自分が生きてい

ること、大切な人がいることに感謝をして、これからも笑顔で過ごしていきたいと思いました。本日は私たちのために、大切なお話をしてくださり、本当にありがとうございました。自分だけでなく周りにも声を掛けて、少しでも悲しいことが起こらないようにして幸せが沢山増えるといいなと思います。

・事故（事故の後遺症）で亡くなった方のご親族のお話を聞いて大きな事故があることでどれほどの人が、どれだけ、いつまで、その出来事を背負っていかなければならないのか。人生がどれだけ変化してしまうのかがよくわかりました。ちょっとしたことが大きな後悔として残ってしまったり、その出来事をふせてしまったり、どんなつらいことだろうと感じました。被害者にも加害者にもならないこと、深く考えたうえで最良の選択をしていけたらと思います。

第1学年

・今回実際に事故で家族を失った人の話を聞いて、一番思ったことは、人が一人亡くなるだけで、多くの人的人生が変わってしまう所がとても心にささりました。自分は自動車に乗ることが多くあると思うので、加害者や被害者にならないように、いつ事故に遭うかわからないので、変な自信を持たず、将来は自動車を運転しようと思います。

・3人の方々からお話を聞いて、まずはとても辛いはずなのに私たちのために、事故があった当時のことを話してくださったことに感謝の気持ちでいっぱいです。今日、お話を聞いて学んだことを今後の人生の中で無駄にしないようにしたいです。普段の自分の通学時のことも改めて振り返ろうと思いました。

・「家族を失った悲しさ」を体験した人の話を聞き、事故はいつ起こるかわからない、いつ、人は命を落とすもしくは重症になるか、わからないと改めて思い、毎日ひとつひとつを大切に生きようと思いました。また、自転車の運転には十分気をつけ、視覚・聴覚・判断力が一番大事だと思います。「自分自身の身は自分で守りたい」と感じました。

・交通事故により家族を亡くされた方々や重度の障害を負われた方々のための団体があるということを知りました。今回、遺族の方々のお話を聞いて途中涙が出てきました。こんなにも「交通事故が人々の生活を変えてしまうのか」と、あらためて思いました。私は登校に自転車を使っていて、時々危ないと思う場面が何度かあるので、今まで以上に気をつけたいと思いました。

第2学年 交通安全 係より